

# 熊谷市なたね栽培暦

令和6年10月1日  
大里農林振興センター

月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月
生育		石灰窒素 施用時、 雑草種子 の発芽	発芽				春雑草の発芽	抽苔期	開花 始期	開花 終期	収穫期
作業	石灰窒素 (必要に 応じて)	耕耘	施肥 (石灰窒素施用時省略) 播種 除草剤(土壌処理剤)	土壌処理剤 失敗時、茎葉 処理剤処理			除草剤 (茎葉処理剤)	追肥			収穫 調製

## ◎ほ場準備

湿害に弱いため排水対策を充分行う。  
十分に碎土すると初期生育や除草効果が良好となる。  
雑種となったこぼれ種からの生育や障害を防ぐため連作は避ける。

## ◎播種

**播種時期は10月上中旬(平均気温20~15℃程度)が好ましい。**  
**播種深は2cmを基本とし、乾燥時は3cm、湿潤時は1cmに調節すると出芽が安定する。**

①条播き 条間:30cm程度、播種量:250-300g/10a  
(中耕除草する場合は60cm程度の条間とする)

②ばら播き 播種量:500-800g/10a  
播種後はハローで薄く土壌を攪拌する(3~5cm)。ドローン表播等で土壌表面が乾燥しがちで発芽が不良な場合、麦踏ローラー等で鎮圧し、種子と土壌を密着させて水分を供給すると発芽が促進される。

## ◎除草

**「雑草は発生前か、小さいうちの対策が重要。大きくなってからでは手遅れ」**  
播種前:雑草種子が多い場合は水稲との輪作を検討する。水が張れない場合は、8月下旬~9月上旬に石灰窒素を40kg/10aほ場表層に施用後、麦踏ローラー等で鎮圧し1か月程度不耕起にして雑草を発芽させてから耕起し、雑草の種子量を減らしてから栽培する。

**(石灰窒素には雑草種子の休眠を打破し、発芽を促進する効果がある)**

播種前の除草は非選択性除草剤のバスタ液剤を用いることもできる。  
播種直後:土壌処理剤(トレファノサイド)は播種後麦踏ローラー等で鎮圧してから施用すると処理効果が高い。冬場は降雨が少なく粒剤だと均等に付着せず効果が劣りやすいため、乳剤の使用が推奨。**散布が遅れてなたねが出芽してしまったら、雑草発生初期に茎葉処理剤(ナブ乳剤もしくはポルトフロアブル)を散布する(この場合、2~3月には別の剤を使う)。**

2月下: 昇温と降雨で春雑草が発生するため、この頃ほ場の雑草を確認したら、~3月上 早めに茎葉処理剤(ナブ乳剤もしくはポルトフロアブル)で防除する  
**(小さい雑草を甘く見ない)**。条間60cm程度の場合は中耕でもよい。

収穫後:**雑草が開花して実をつける前に早めに耕起し、翌年以降の雑草種子を減らす。**  
**雑草の埋土種子量を減らしていく意識をつけると、年々管理が楽になる。**

## ◎基肥

窒素、リン酸、カリ各成分5~7kg/10a程度施用(オール14だと2袋程度)。  
**石灰窒素施用の場合、基肥は省略する。**その他の微量要素欠乏を防ぐため、pHが低い場合は苦土石灰等(50~100kg/10a程度)で6.5くらいに矯正する。数年に一回、たい肥または微量要素資材(マルチサポート、農カアップ等)を施用する。

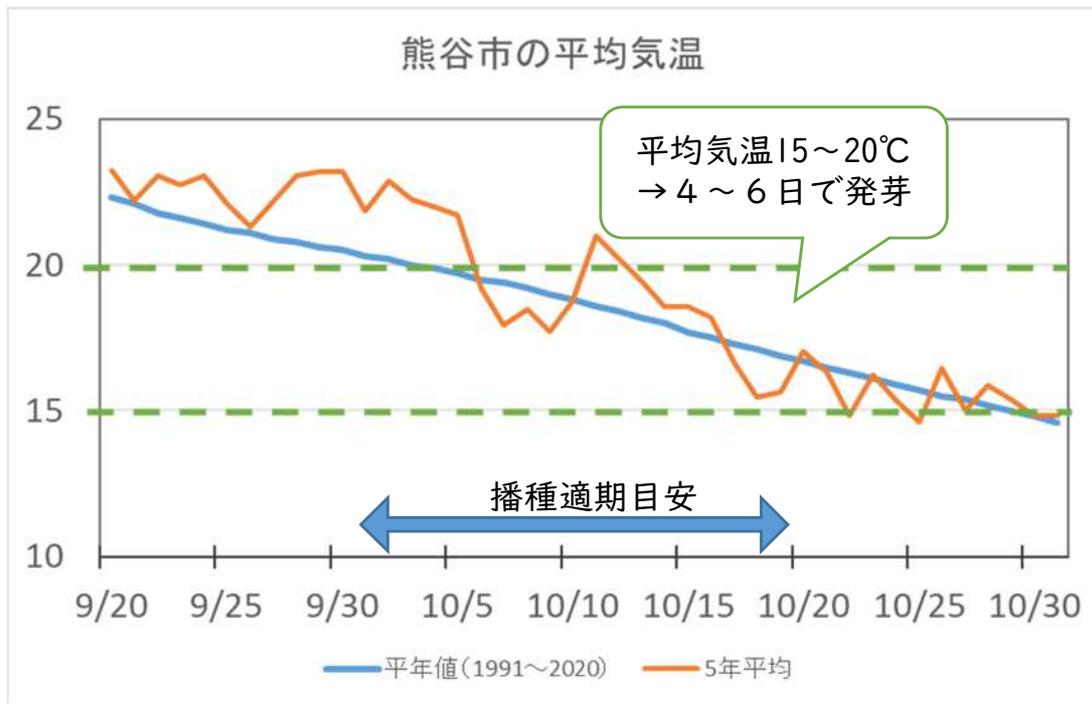
## ◎追肥

3月上旬頃に窒素成分で2kg/10a(硫安で袋半分(10kg)程度)施用する。

## ◎収穫・調製

6月中旬前後の全莢壁が退色した頃に収穫する。収穫後は通気性の良い状態で水分8~9%程度まで速やかに乾燥させ、唐箕やふるいなどで異物を取り除く。

## < 播種時期の目安 >



なたねの発芽は水分が適切な場合、温度によりかかる日数が決定する。越冬時に十分な生育量がないと、なたねの枯死や霜柱による断根等がみられるため、播き遅れには注意が必要。

表 日平均気温となたね発芽までの日数

日平均気温	20℃	15℃	10℃
発芽までの日数	4日	5.4日	8.6日

播種が遅くなるほど、発芽までに時間を要する